

2 【かかわる】	①【ボランティア】 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。	教育課程外 (長期休業中)
----------	--	------------------

【題材】生徒会活動

【対象】全校生徒

【実践のねらい】

- 震災にかかわり、「わたし達にできることとはなんだろう」と考えさせ、被災地で実際に必要とされているボランティアに取り組みせ、復興を担う人材の育成を図る。
- 震災を風化させないように、被災地の野田中学校生徒会と野田中学校校庭の仮設住宅に住んでいる方々との継続した交流を行う。

【実践の概要】

- 1 冬の野田中訪問（平成25年1月8日）
 - ・ 稲作実習(2年技術・家庭科)で収穫したもち米を餅に加工し、仮設住宅の方に届ける。
 - ・ 校内募金活動の収入でクリアブックを野田中学校全校生徒分購入し、メッセージカードを全校生徒で作成し届ける
- 2 夏の野田中訪問（平成25年8月1日）
 - ・ 仮設住宅近辺の除草作業を行いゴミ袋27袋の草刈りを行う。
 - ・ 矢巾町特産の「南昌さんさジュース」にメッセージカードを添え、仮設住宅一軒一軒を訪問し手渡す。
- 3 3・11集会の実施
 - 3・11集会として震災を風化させないように全校集会を行う。

★ 「わたし達にできることとはなんだろう？」・・・矢巾中生徒会活動の考え

- ◇ お餅を届けることが、クリアブックを届けることが、復興のなんの役に立っているのだろう。わたし達は野田村に行ってみてしまったのです。沿岸部に巨大な瓦礫の山があることを、基礎だけを残して流れていってしまった家があったことを。あの1000年に一度の大震災に対して、わたし達はあまりに無力ではないだろうか…。
- ◇ わたし達にできることとはなんだろう。本当の意味でできることとはなんだろう。生徒会としてわたし達は考えました。それは今後も変わらない継続支援をしていくこと。そして震災を忘れてはいないという「心」、これからも一緒に歩いていこうという「気持ち」を届けること、それがわたし達にできることではないだろうか。



野田中学校の校庭に建てられた仮設住宅は120戸で、その一軒一軒に餅やメッセージカードを届けています。今年で三年目の取組となりますが、仮設住宅に住む方々から「今年もありがとう」「去年のお餅は本当においしかったよ」等のお言葉をいただいています。そういった温かい言葉が生徒の活動の励みにつながっています。



写真は今までの活動の様子の一部です。また、右の葉書は、冬の訪問の後に仮設住宅に住んでいる方からいただいた寒中見舞いです。継続した活動が、根付いてきていることを感じます。



★ 「復興するまで続けます」・・・生徒会執行部JRC委員長の感想から

- ◇ 野田中学校に訪問させていただくとき、わたしはいつも自分たちが準備したものや気持ちが、野田中生や仮設住宅の方々に喜んでもらえるか不安でした。でも私達が行くと笑顔でむかえていただき、わたしの不安は一瞬でなくなりました。自分たちにできる事は、小さな事かもしれませんが、一人ひとりが気持ちを持って心を届ける活動をするに大きな意味があるのだと思います。
- ◇ また、活動を通して野田中学校生徒会の皆さんの変化に感心しました。「野田村の太陽になろう」と野田村全体を明るく照らそうと活動する生徒会の皆さんから、復興に向けて歩み出そうとする力強さを感じました。
- ◇ これからも復興に向けて、ためらったり不安に思ったりせず、自分が今やれることを続けていくことが大切だと思いました。矢巾中学校の交流はこれで終わりではありません。これからもきっと本当の復興がやってくるまで続いていくでしょう。わたしは本当の復興を心から願います。

【実践のまとめ】

本校復興教育の取組は継続的な活動であり、生徒会が代替わりしても、次の活動が始まっています。この活動を続けてきたことで、本校にボランティア活動が定着してきており、本年度は野田中交流ボランティアに100名近くの生徒が参加を希望してきました。継続的な活動の成果と言えます。

なお、今年度は、初めて野田中生徒の本校訪問が実現できました。野田中校長先生の「ようやく外に出れるようになりました。」の言葉が印象的でした。今後も取組を末永く継続し岩手のいち早い復興につなげたいと思います。